

# 錦影絵種板「道化獅子買」の映像化 — 演目復元と資料活用をめぐつて —

澤井 浩一

## はじめに

錦影絵は風呂（幻灯器）と種板（スライド）を用いた芸能、見世物で、関東では写し絵とよばれ、その映像表現から日本のアニメーションの源流ともよばれることがある。通常のスライド映写や映画とは異なり、和紙スクリーンの裏側から投影するリアプロジェクション方式で、演者が風呂を持ち動かし、種板を操作することで登場人物などに動きを与え、レンズやシャッターの操作により、大写しやズームイン、フェイドアウト等々の表現も可能にしていた。幕末から明治期に隆盛となり、大阪市内では常設館も存在したが、大正期以降には映画に押されて姿を消していった。

大阪歴史博物館所蔵の錦影絵資料（平成二二年度に大阪市指定文化財）については別稿<sup>1)</sup>にすでに述べたが、風呂一点、種板八〇〇点という写し絵・錦影絵コレクションとしては最大規模のものである。このコレクションを紹介する映像ソフトに、大阪歴史博物館の学習情報センター（なにわ歴史塾）での視聴を目的に、制作されたオリジナルの映像ソフトとして「錦影絵」（平成一五年度）がある（写真1）。筆者が担当学芸員として

制作に関わった。この映像作品では、錦影絵およびコレクション概要の紹介に加えて、種板のなかから「道化獅子買」を選んで上演し復元映像として収録している。上映・上演しないと理解し難いという錦影絵資料の特性上、今後の資料活用を検討するには、錦影絵の演目復元作業や映像制作の過程を材料として、振り返りの作業が不可欠であるため、本稿において報告し、錦影絵資料の活用の展開等について考察するものである。

## 一 映像作品の概要

平成一五年度に制作したビデオのタイトル「錦影絵」は、二二分四三秒の作品で、前半の九分三〇秒は錦影絵と大阪歴史博物館資料の解説とし、後半の約一二分で種板「道化獅子買」の再現上演を収録している。

前半の解説では、写し絵・錦影絵の概要を、ガラスレンズを用いた覗きからくり等の幕末に発生した芸能文化との関係に触れながら、写し絵・錦影絵の全国的な広がりを東京都奥多摩の写し絵資料<sup>2)</sup>や島根県松江市の影人形資料<sup>3)</sup>により説明した。また錦影絵全盛時には大阪では御霊神社

境内や千日前に常設の小屋<sup>4</sup>ができ、子どもに人気があつて、錦影絵の玩具絵<sup>5</sup>なども出版されるなどの広がりみせたことなどの歴史的な状況説明を加えた。

その上で、錦影絵で用いられる風呂や種板の構造について実物資料から解説し、「三番叟」の種板を例示しながら、人物の手の動き、足の動きが種板のスライド板操作で実現できる仕組みや、風呂についてはレンズの構造や布製シャッターの使用方法などを紹介した。

日本最大級となる錦影絵コレクションについては、所蔵の経緯として上方喜劇の曾我廼家五郎の旧蔵品であつたことを、種板の添え板に残された墨書と錦影絵を使う五郎と伝えられる古写真<sup>6</sup>により伝えた。

八〇〇点ある大阪歴史博物館所蔵の種板は演目数にして約四〇種で、「道化七(質)屋蔵」により落語ネタや妖怪変化の登場が多いことや「仮名手本忠臣蔵大詰」によりチャンバラ劇も多く、文楽人形の「梨割」のような滑稽で残酷な表現が多数含まれることにも触れた。

以上のような解説を加えた後に、実際の上演映像をみてもらい、錦影絵の映像表現を体感してもらう構成とし、次節に述べる「道化獅子買」全編の復元上演を収録した。

## 二 種板「道化獅子買」と上方落語「池田の猪買い」

約四〇種ある種板の中から「道化獅子買」(館蔵品番号 芸一〇八六)を選択し、上演することとした(写真2)。これは大阪芸術大学芸術研究所の二〇〇四年度研究プロジェクト「甦る玩具映画！玩具映画及び映画復元・調査研究プロジェクト」において調査が行われた際に、この種板の内

容が判明していたことによる。「道化獅子買」は道化とあることから滑稽味のある内容と推察されるように、上方落語の「池田の猪買い」に取材した出し物である。関東の写し絵などには台本類が残存していることがあがるが、管見の限りでは錦影絵には台本の残存例はなく、種板の内容を知るには種板の保管のための挟み板(混乱している場合がある)に記された外題を参考に、種板の各一コマに描かれた画像を確認して内容を調査する必要がある。館蔵資料の種板では他に、前掲の「道化七屋蔵」(質屋蔵)のほか、「龍宮渡海あまの玉取」(小倉船)、「道化御洗水」(手水回し)、「道化首嵌換」(首の仕替え)、「道化釜盗人」(釜盗人)など一八演目が落語ネタと考えられ、全体の約半数が落語に取材したものになる。「池田の猪買い」はその落語ネタのなかでも比較的よく知られた演目であつたことも映像化の選択理由である。

「道化獅子買」の種板枚数は一九枚で、描かれる画像等の内訳は表1の通りである。落語「池田の猪買い」の口演録等<sup>7</sup>を参考に登場人物の対比を行うと、主人公の男、道中で道を尋ねる農民、獵師の六太夫、その倅の猪之、猪が種板の絵と該当することが判明した。落語の冒頭に登場して男に猪肉を勧める甚兵衛に相当する人物の種板はなく、その場面はこの種板の演目では省略されていたか、六太夫の平服姿で代用した、あるいは種板が他の演目に混入してしまったと推測される。逆に落語に登場しない化狐や三つ目入道の種板が含まれている(写真3・4)。また徳利を頭に用いて蓑笠を着せた案山子の種板(写真5)も存在し、「とっくり(徳利)と見なんだが、身の(蓑)一生(一升)の誤りやなんて」という落語の台詞を正確になぞるための絵も用意されていた。また背景用の種板も大阪市中から池田の山中へと至る落語のストーリーに沿ったものとなっている。

その中には心齋橋派出所や鉄橋（写真6・7）が描かれることから種板の製作年代が明治一〇年代半ば以降と判明する。

復元上演のための台本は主として『米朝落語全集』第一巻所収の口演<sup>8)</sup>を参考に組み立てたが、所蔵種板の状況が表1のような状況であったため、落語をそのまま上演することでは物語は成立しなかった。冒頭の甚兵衛さんと主人公の男とのやり取りは相当するような人物の種板がないことから省略した。また大阪市中で産婆さんと呼びに行く男と主人公の絡みも同様の理由で省略した。種板があっても落語には登場しない化狐、三つ目入道といった妖怪は登場させないこととした。また、落語では、猪の新しさに拘る男に苛立った六太夫が、鉄砲の弾が耳元をかすめて気絶していた猪を、鉄砲を逆手に打ち据えようと、猪が起き上がり歩いて行き、「あの通り新しい」でサゲとなる。ところが種板では鉄砲で打ち据える六太夫の絵はあるが、別に猪に跨り格闘する絵（写真8）も存在していたので、その処理のためにサゲを変更し、六太夫が猪に乗り素手で取り押さえているところへ、男が「これ新しいか？」と突っ込んで終わることとした（写真9）。なお、省略・簡略化は映像ソフト制作のための復元であることを前提に、ビデオの尺数をできるだけ短縮する目的もあった。

このようにして組み立てた台本により使用する種板は表2のようになり、一九点中一五点を使用し、四点の種板は使用しない編成となった。

同じ種板の複製を使用して、二〇一四年（平成二六）には、大阪芸術大学錦影繪池田組による復元改題「池田の猪買い」が上演されている。四月に放映されたNHKBS「ムカシネマ2」に収録され、五月二六日には学内公演、八月三〇日には富田林市旧杉山家住宅で公演され（二〇一五年九月二三日にも実施）、明治期の石油ランプ光源の色温度の色味にあわせ

て復元した映像を投影するものであった。錦影繪池田組の「池田の猪買い」のサゲの処理は、

気絶した猪を六太夫が鉄砲で突く↓猪走り出す「走り出すほど新しい」↓六太夫猪に乗り、代金を持って去る↓三つ目入道↓化狐登場↓男が化狐とチャンバラ↓退治した化狐を棒で担いで去る「甚兵衛さん、けつねうどんなら何ぼでも食べれませ」

で、最終的なサゲに至る構成としており、より落語に近いストーリー展開を実現しつつ、大阪歴史博物館の復元では採用しなかった化狐の種板も用いている。錦影繪が子どもを中心的な客層とした明治期当時の演出として、本来の筋書きとは関係なく無理やりにも妖怪を登場させたことは十分に考えられるので、現在の種板の組合せに混入がないとすれば、錦影繪池田組が再現したような内容が明治期の興行でも行われていたと想像される。

### 三 「道化獅子買」の復元上演

復元上演は二〇〇四年三月、大阪歴史博物館所蔵の種板原品を實際に用いて実施した。上演は大阪歴史博物館のスタッフでは不可能であったため、風呂や種板の操演を外部に依頼する必要がある。関西の錦影繪は故三代目桂米朝師一門によって伝承されており、落語の語り口を含めて実現できる米朝一門の方々に依頼することも選択肢ではあったが、実物資料による演目復元を実施するため、写し絵の演目復元に以前から取り組み、関東の写し絵資料等の文化財の取り扱い扱ひも熟知している東京の劇団みんな座（山形文雄代表）に依頼することとした。

錦影絵の上演には、和紙のスクリーンを張る間口の幅と、光を完全に遮断して暗闇にできる環境が必要であったため、大阪歴史博物館の講堂に於いて上演・撮影を実施した。和紙スクリーンと風呂（劇団みんわ座の製作品）四台は劇団みんわ座から持ち込んでいただき使用した。風呂の光源には、普段の公演に使用されている一〇〇ワットに替えて、館蔵資料の風呂に付属していたものと同じ六〇ワットの白熱電球を使用してもらうことにした。

上演に際しては事前に種板の点検を実施し、ガラス板が剥落しそうな資料については簡易な補修を施した上で使用した。復元上演では、前述のように台本を用意した。あらかじめ台本を筆者が朗読するかたちで事前に録音し、その音源に沿って風呂と種板を操作し映像を制作する方法を取った。一場面ずつ動作確認を行い、資料の安全を確保しながら撮影を進め、種板が動かないなどした場合は別の絵を用いるなど演出を変更した。また、人物の動きや種板や風呂を用いた映像表現については劇団みんわ座の操作にお任せすることとした。

筆者が録音した仮の音源に合わせて撮影した映像は、台詞も囃子もないため、語りは制作会社を通じて、落語家の桂昇蝶さんをお願いし、後日にスタジオで収録した。映像の間合いが素人の朗読によるものとなっているため、落語家の方がそれに合わせた語りをされるのは苦労されたのではないかと推察されるが、復元上演の映像のテンポが少し間延びしているのはそのためである。また囃子を入れず、編集で一部にBGMを入れることで、映像作品として完成させた。

各風呂を持つ演者がそれぞれ投影するキャラクターの声も演じることを、一人のナレーションで復元しているため、本来の錦影絵の姿は実現で

きていないが、和紙スクリーンに裏側から投影されたボケの効いた、やさしい灯りによる映像の味わいは見ていただけのものになったと考えている。

#### 四 錦影絵資料の活用に向けて

錦影絵資料は、風呂や種板を展示しても、その芸能としての姿は極めて理解しがたい。また展示に際しても種板の画像を見せるには内照式のパネルの上に陳列するなどの光をうまく取り入れる工夫も必要である。大阪歴史博物館の前身となる大阪市立博物館において錦影絵資料を展示する際に、錦影絵の映像を復元するボックス型の装置を用意したことがある。これはスライドフィルムに撮影した種板の画像を映写機で和紙スクリーンに背面から投影し、エアコンプレッサーを利用した動力で画像を部分的に入れ替えて、人物の動きの変化をプレゼンテーションするものであったが、芸能としての錦影絵を紹介するにはたいへん役不足なものであった。そのため、新しい博物館での錦影絵展示を補完する意味でも、映像ソフトの制作は使用時の姿を理解していただく上で必要不可欠なものであった。

今後の錦影絵資料の活用には、二つの方向を模索すべきであると考えている。一つは、風呂および種板の複製を製作しての上演である。すでに劇団みんわ座においては実現されていることであり、これまで上演に実物が用いられてきた故桂米朝師所蔵品の一部も複製が製作されている<sup>9)</sup>。大阪芸術大学錦影絵池田組においては新作の演目を創作し上演する試みも続けておられる。大阪歴史博物館の種板資料についても、いくつかの演目を複製し、映像ソフトではなくライブで上演することができれば、より直接的に資料の理解につながる活動が可能になり、またそれを利用した体験学

習やその他のワークショップという普及教育活動もできるようになる。また古典的な錦影絵の演目復元や劇団育成も目標にできるようになる。ただ複製製作には多大な費用が必要であり、予算措置が難しければ外部資金の獲得などの努力も必要になってくる。

二つ目の方向はワークショップの開催である。二〇一五年に開催された早稲田大学演劇博物館の春季企画展「幻燈展―プロジェクト・メデアの考古学」(四月一日～八月二日)ではいくつかのワークショップが実施されている。そのなかには劇団みんなわ座の山形文雄氏を招いての写し絵の投影体験(四月一七日)、写し絵の制作体験ワークショップ「作ってみよう・写してみよう」(六月二〇日)を行っている。劇団みんなわ座による写し絵制作のワークショップは他施設でも実施されており、ダンボールと電球で風呂(映写機)を作り、プラスチックシートに絵を描いて種板(スライド)を作って投影するものである。また劇団みんなわ座の方からOHPシートにプリンタ出力して投影に用いるワークショップも実施していたことを教示いただいたが、この方法であれば簡易な複製を製作することも可能となる。また低予算での実施が可能なことでも現実的である。

以上の二つの方向を模索しながら、実物の展示・公開についても工夫・検討を重ね、様々な機会に大阪に残された錦影絵資料について情報発信していくことが所蔵する機関としての課題であると考えている。

#### 註

- (1) 拙稿「資料紹介 錦影絵について―大阪歴史博物館蔵品を中心に―」『大阪歴史博物館研究紀要』第一号、二〇一三年二月。
- (2) 写し絵の道具(東京都 奥多摩水と緑のふれあい館)。

(3) 影人形の風呂・種板(鳥根県 松江郷土館(二〇一一年閉館)所蔵)。

(4) 昭和初期に復元された「あやめ館」写真(大阪城天守閣蔵、『上方』第二号(一九三一年二月)所収)および「千日前回想マップ」(『実記・百年の大阪』朋興社、一九八七年)により紹介した。

(5) 個人蔵。カラーコピーで提供いただいたものを組み立てて使用した。

(6) 個人蔵。

(7) 『米朝落語全集』第一卷(創元社、一九八〇年)に所収のものを主として参考にした。

(8) 註(7)に同じ。

(9) 『錦影絵に関する調査研究事業』調査報告書』社団法人上方落語協会、二〇〇七年三月。

「謝辞」平成一五度の「錦影絵」の映像制作には、たくさんの方々のご協力を賜りました。本稿の作成にあたり、あらためて厚く御礼申し上げます。

表1 錦影絵種板「道化獅子買」(芸1086)の画像内訳

	墨書	操作	種板窓1	種板窓2	種板窓3	種板窓4
芸1186-01		挿	人力車とガス灯	松と山(雪景色)		
		引	松と山	民家の門		
芸1186-02		引	松・山・道標(すぐ池田/右伊丹中山)	民家の壁(動物の皮)と障子		
		挿	鉄橋	岩山と木々		
芸1186-03		引	松と山(雪景色)	民家の土塀(雪)		
		挿	心齋橋派出所	山と木々(雪景色)		
芸1186-04		引	案山子	民家の衝立		
		挿	橋の欄干と高札	山と木々(雪景色)		
芸1186-05			吊られた猪 (※仕掛け板あり、ガラスなし)			
芸1186-06	一	引	男(羽織)	男(羽織)		
		挿	男[手の変化]	男[手の変化]		
芸1186-07	二	引	男	男		
		挿	男[手の変化]			
芸1186-08	三	引	農民(鍬入れ)	農民(種まき)	農民(座して喫煙)	
		挿	農民(種まき)	農民[手の変化]	農民[首の変化]	
芸1186-09	四	引	男2(傘を持つ)	男2(傘を持つ)	男2(傘を持つ・屈む)	
		挿	男2[手の変化]	男2[手の変化]	男2(傘を持つ・駆ける)	
芸1186-10	五	引	男(傘を持つ)	男(傘を持つ)		
		挿	男[手の変化]			
芸1186-11	六	引	男(立ち姿)	男(座る)	男(中腰)	
		挿	男(立ち姿・向き変る)	男[手の変化]	男(中腰・向き変る)	
芸1186-12	七	引	六太夫(立ち姿)	六太夫(座る)		
		挿	六太夫(立ち姿・向き変わる)	六太夫[手の変化]		
芸1186-13	八	引	狸姿の六太夫(座る)	狸姿の六太夫(座る)		
		挿	狸姿の六太夫(鉄砲を持ち立つ)	狸姿の六太夫[手の変化]		
芸1186-14	九	引	猪之[六太夫の俵]			
		挿	猪之(向き変わる)			
芸1186-15	十	引	六太夫(鉄砲を担ぐ)	六太夫(鉄砲で狙う)	六太夫(鉄砲を下を突く)	
		挿	六太夫(鉄砲を担ぐ・向き変る)	六太夫[首の変化・振り返る]	六太夫(両手を広げる)	
芸1186-16	十一	引	男	男	男	男(駆ける)
		挿	男[手の変化]	男	男[上半身の変化]	男(驚き座り込む)
芸1186-17	十二	引	猪	猪に乗る六太夫		
		挿	猪(向き変る)			
芸1186-18	十三	引	男(棒を持つ)	男(棒を振り上げる)	男(棒を持ち構える)	男(棒で化狐を担う)
		挿	男(棒を持つ)	男(棒を振り下ろす)		男[足の変化]
芸1186-19	十四	引	化狐(棒を持つ)	化狐(棒を振り下ろす)	三つ目入道	化狐(倒れこむ)
		挿	化狐(棒を持つ)	化狐(棒を振り上げる)		化狐(倒れ伏せる)
附属品	道化獅子買		挟み板「道化獅子買」2枚			

種板外寸: 57×187mm(窓1個)

57×243mm(窓2個)

57×323mm(窓3個)

57×412mm(窓4個)

表2 演目復元「道化獅子買」(池田の猪買い)での種板の使用方法

	場面	登場人物	使用種板	背景	使用種板
1	男が大阪から池田へ向かう	男	芸1186-07	派出所→人力車・ガス灯→心齋橋鉄橋	芸1186-03→01→02
2	男が池田の山の手にかかる	男	芸1186-07	松と山→松と山	芸1186-02→01
3	男が池田で道をたすねる(案山子に)	男	芸1186-07	松と山(雪景色)、案山子	芸1186-03、04
4	農民が鍬打ちしている	農民	芸1186-08	松と山(雪景色)	芸1186-01
5	男が農民に道をたすねる ※農民は種まき→タバコで一服	男、農民	芸1186-07、08	松と山(雪景色)、民家の土塀(雪)	芸1186-01、03
6	男が六太夫に出会う(六太夫宅前)	男、六太夫	芸1186-07、12	民家の門	芸1186-01
7	男と六太夫の商談(六太夫宅内)	男、六太夫	芸1186-11、12	吊られた猪、民家の壁(動物の皮)と障子	芸1186-05、02
8	猟に出るため子どもを呼ぶ(六太夫宅)	男、六太夫、猪之	芸1186-11、13、14	民家の衝立	芸1186-04
9	山に入った男と六太夫が猪に出会う	男、六太夫、猪	芸1186-16、15、17	岩山と木々	芸1186-02
10	六太夫が猪を狙う	男、六太夫	芸1186-16、15	岩山と木々	芸1186-02
11	打ち損ねた猪が六太夫に向かう	六太夫、猪	芸1186-15、17	岩山と木々	芸1186-02
12	(サゲ)六太夫さん、これ新しいか	六太夫、猪	芸1186-17、16	岩山と木々	芸1186-02



写真1 映像ソフト「錦影絵」より「道化獅子買」復元上演部分

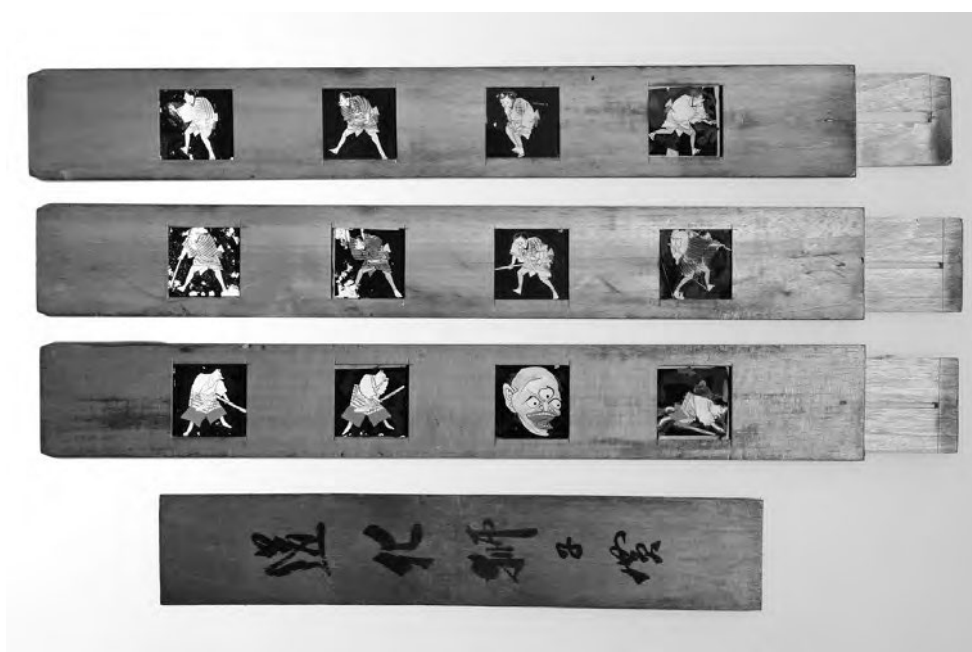


写真2 種板「道化獅子買」の一部



写真3 化狐



写真4 三つ目入道



写真5 案山子

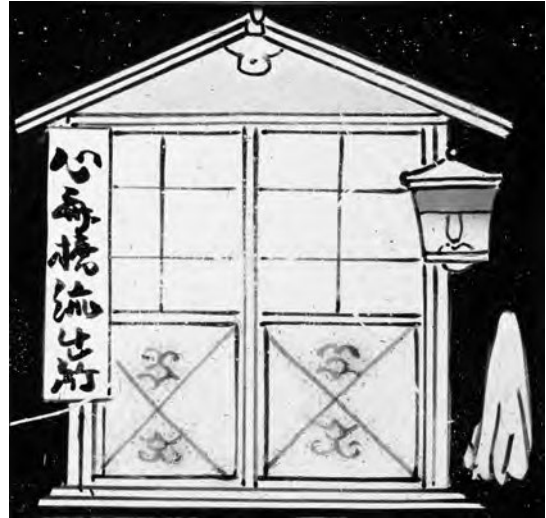


写真6 心斎橋派出所

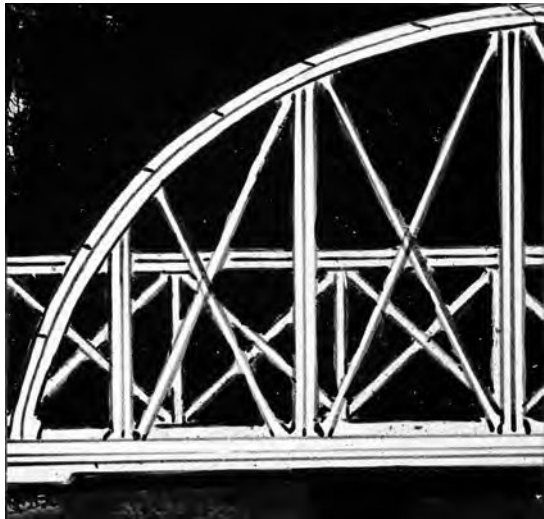


写真7 鉄橋

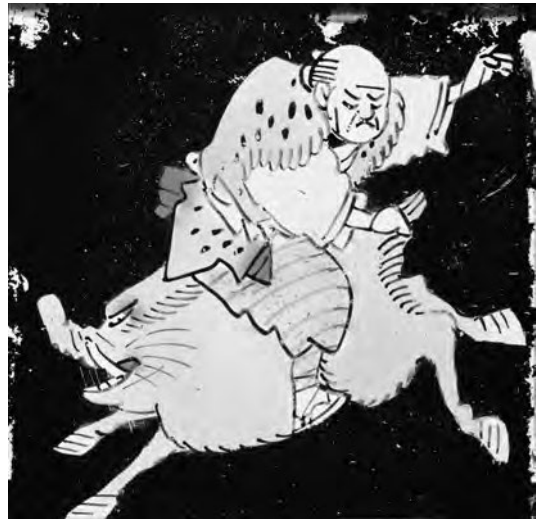


写真8 猪に乗る六太夫

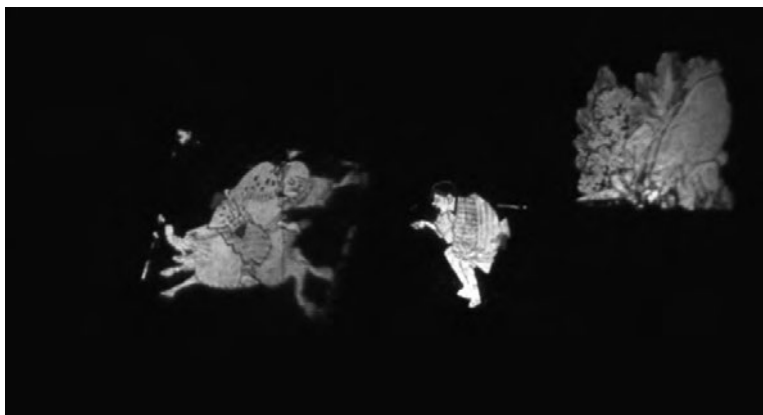


写真9 男が六太夫に「これ新しいか」と問うサゲの場面